

第2回
令和3年4月17日



鎌倉市本庁舎等整備

市民対話 ワークショップ レポート



鎌倉市本庁舎等整備 市民対話 ワークショップ 第2回

◆開催日：令和3年（2021年）4月17日（土）

◆開催形式：オンライン

◆参加人数：31名

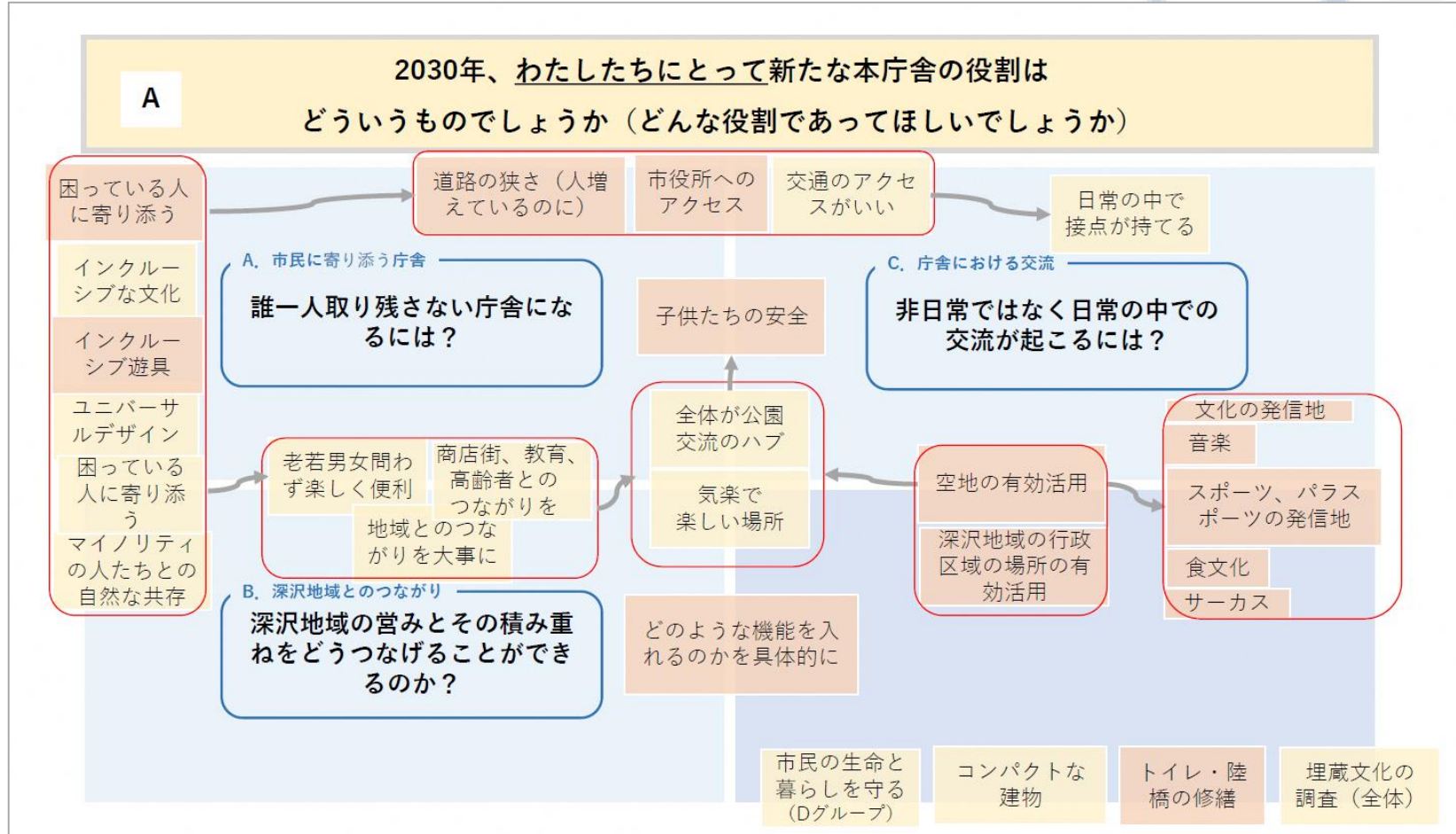
◆概要：前回グループで対話を行った「新たな本庁舎」と「鎌倉市役所現在地」の2つのテーマに対して“わたしたちにとって”という視点で対話を深めました。



対話終了後のフォトセッションの様子



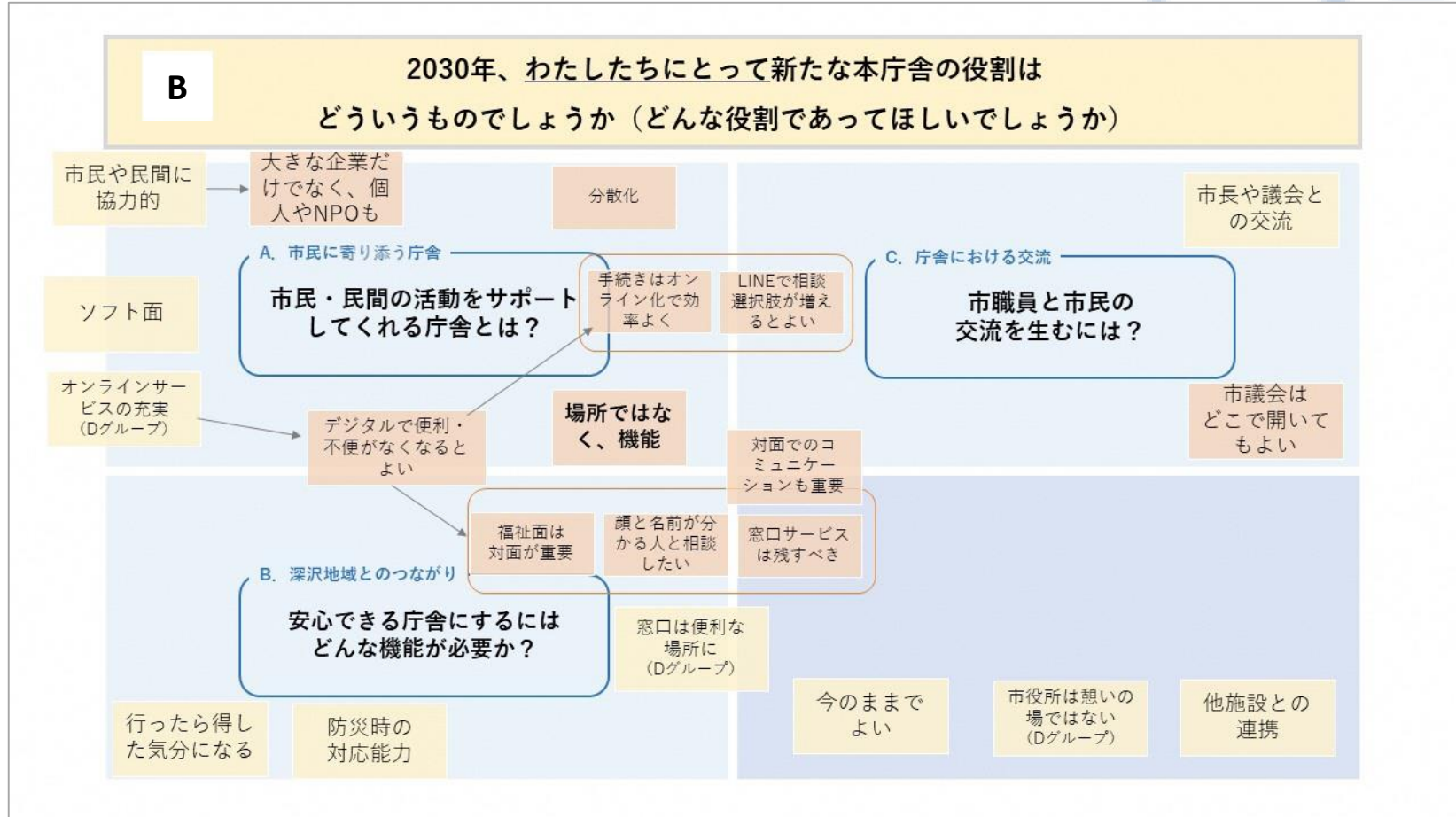
Aグループ



新たな本庁舎の役割として、「困っている人に寄り添う」「ユニバーサルデザイン」「マイノリティの人達との自然な共存」など利用者の多様性に配慮した「インクルーシブ」な場所とすることが重要であるというキーワードが挙がりました。また、深沢地域と鎌倉市役所所在地の違いを理解した上で、深沢地域では「行政区域の場所の有効活用」を図り「音楽」や「スポーツ」など「文化の発信地」となることが期待されていました。



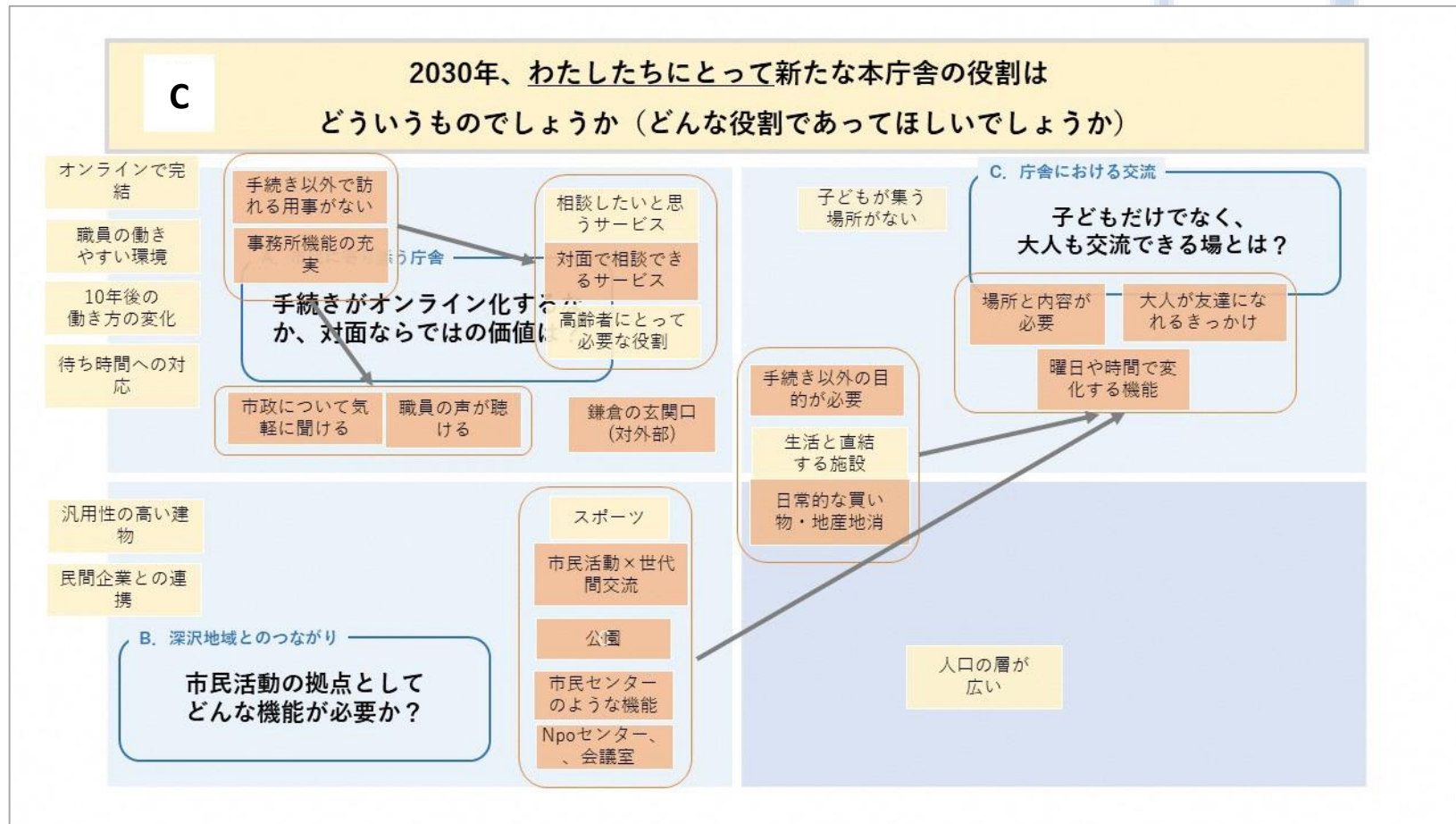
Bグループ



新たな本庁舎の役割として、「デジタルで便利・不便がなくなるとよい」「手続きはオンライン化で効率よく」「場所ではなく機能」など、オンライン化による時間や場所に縛られない行政サービスの提供、利用者の利便性向上を重視するキーワードが挙がるとともに、「対面でのコミュニケーションも重要」「窓口サービスは残すべき」など対面で実施すべき行政サービスの必要性についての議論も行われ、利用者が選べる選択肢が増えると良いという考えを共有しました。また、「防災時の対応能力」など災害に対するキーワードも挙がりました。



Cグループ

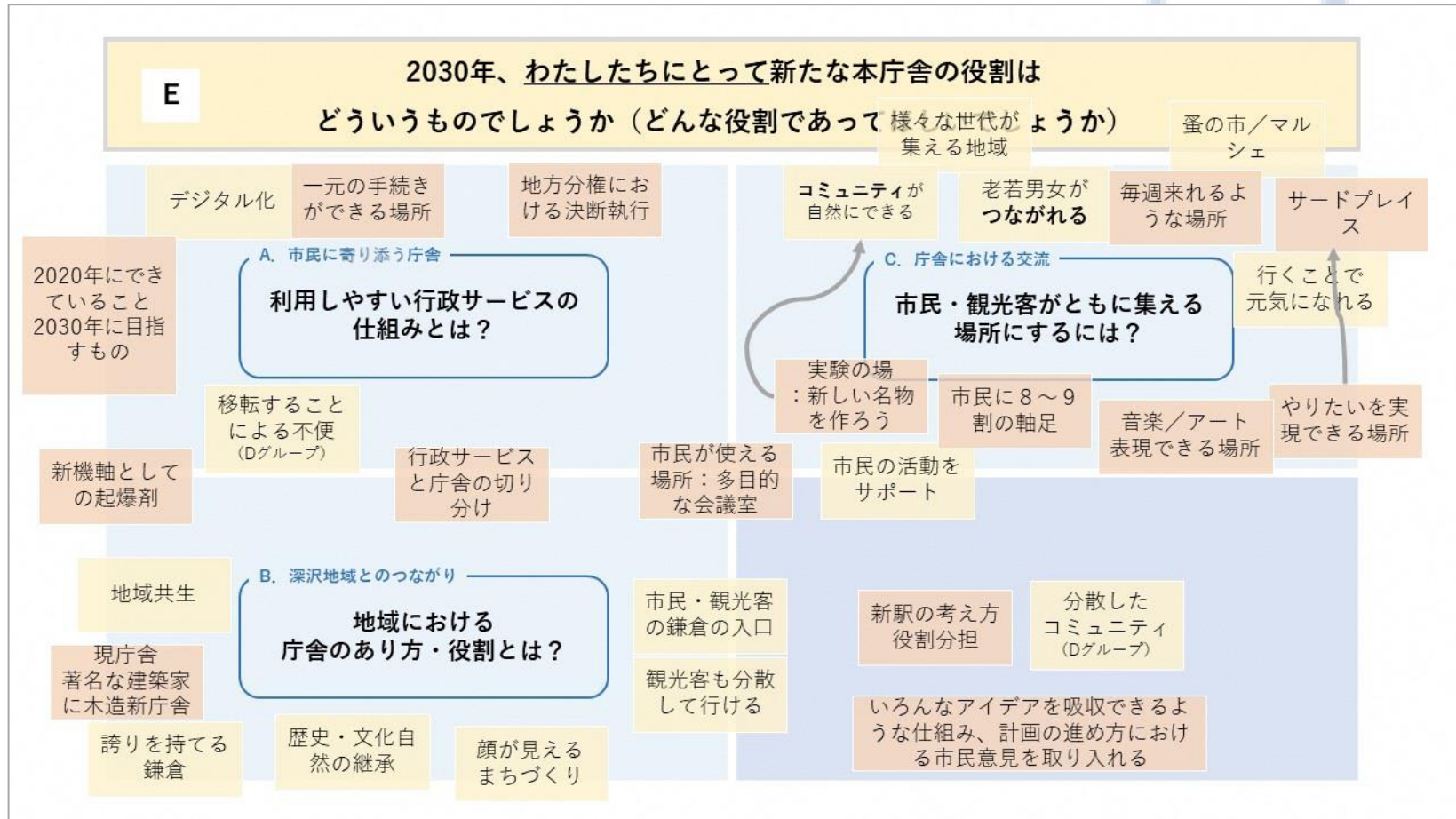


新たな本庁舎の役割として、手続きは「オンラインで完結」することが望まれる中、対面ならではの価値として「市政について気軽に聞ける」「対面で相談できるサービス」の充実などが挙げられました。また、深沢地域の他の施設とも連携しながら「手続き以外の目的」で訪れる機会を増やし、「市民活動」や「世代間交流」が行われる「市民センターのような機能」「場所と内容(ソフト面での仕組み)」が必要といった視点でも対話を行いました。



2030年、わたしたちにとって新たな本庁舎の役割はどのようなものでしょうか (どんな役割であってほしいでしょうか)

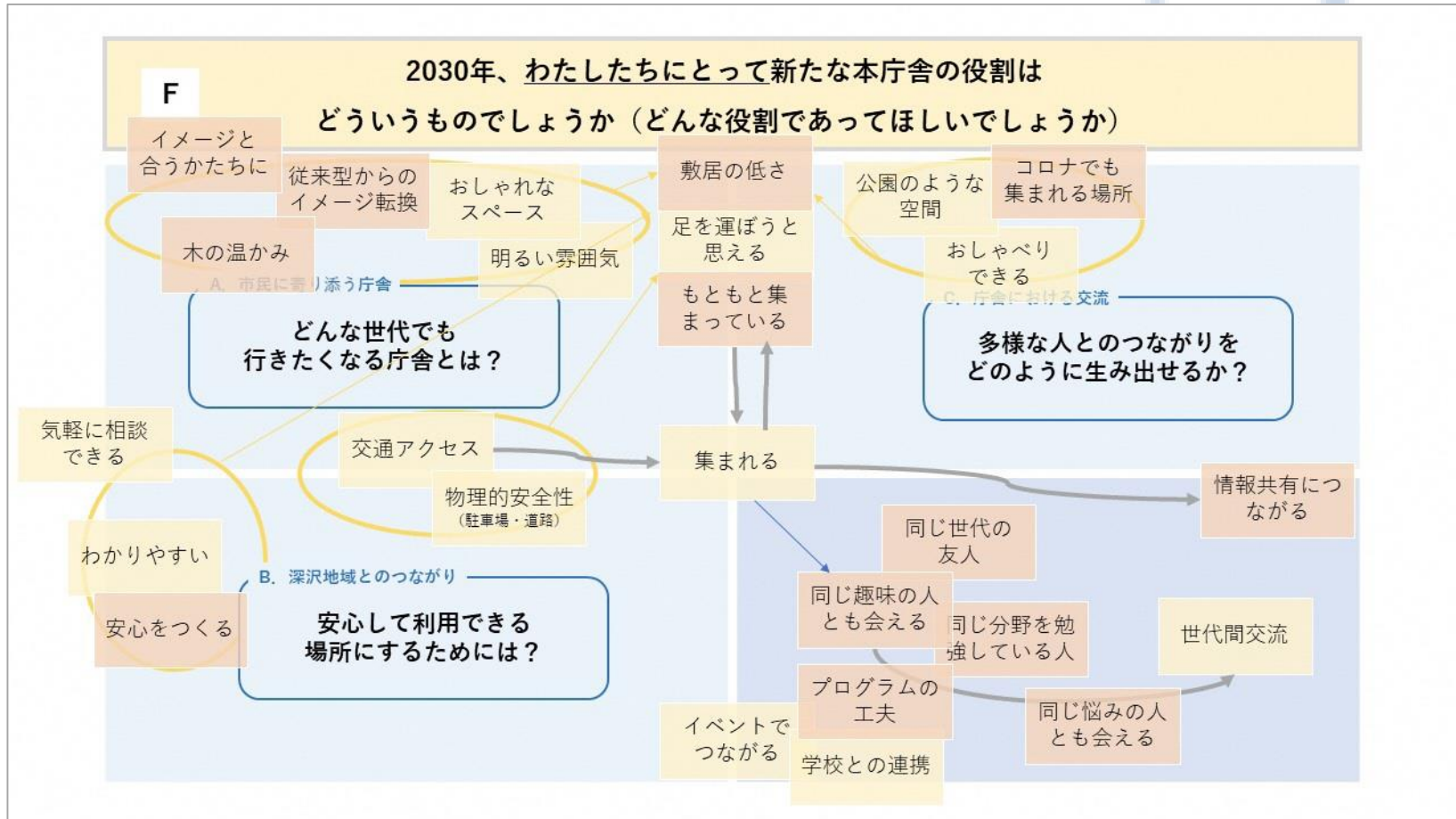
Eグループ ※Dグループは人数等を考慮し各グループに割り振りました。



新たな本庁舎における利用しやすい行政サービスの仕組みとして「デジタル化」や「一元の手続きができる場所」などのキーワードが挙がりました。また、「毎週来れるような場所」「市民の活動をサポート」「やりたいを実現できる場所」「市民が使える場所：多目的な会議室」「マルシェ」「音楽・アート表現ができる場所」など、日常における継続的な多世代市民交流を促す施設や仕組みなどについて具体的なアイデアで対話を行いました。



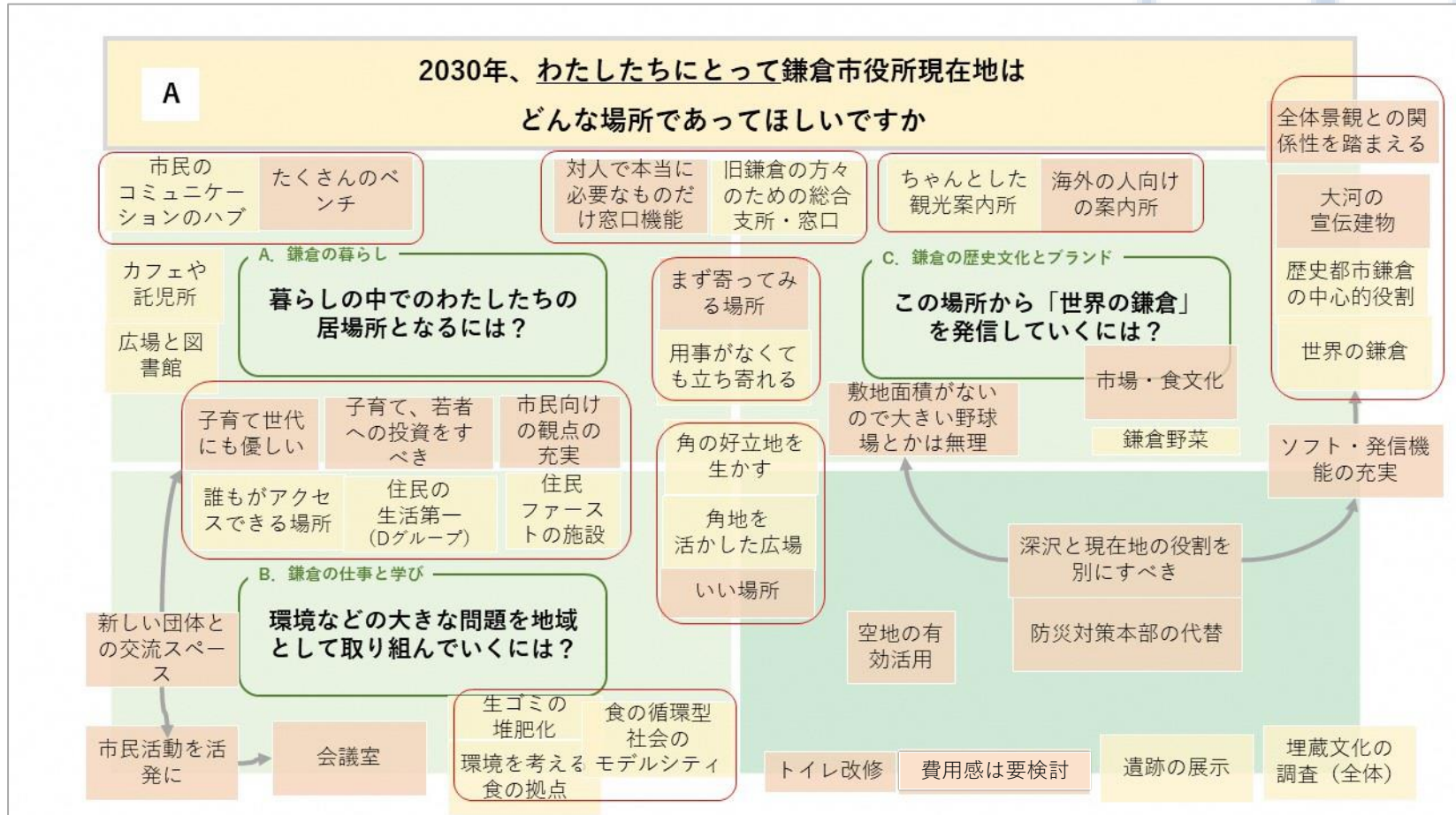
Fグループ



新たな本庁舎の役割として、3つの問いに共通して「集まれる」場であることがキーワードになるのではという視点で対話が進みました。「集まれる」ためには、「従来型からのイメージ転換」「木の温かみ」「明るい雰囲気」「おしゃれなスペース」が必要であるとともに、利用者にとって「わかりやすい」「気軽にご相談できる」「安心して利用できる」環境が必要とのキーワードが挙がりました。また「集まれる」ことにより同じ「趣味」や「悩み」を持っている人と会うことができ、(世代間)交流も生まれるのではないかと対話を行いました。



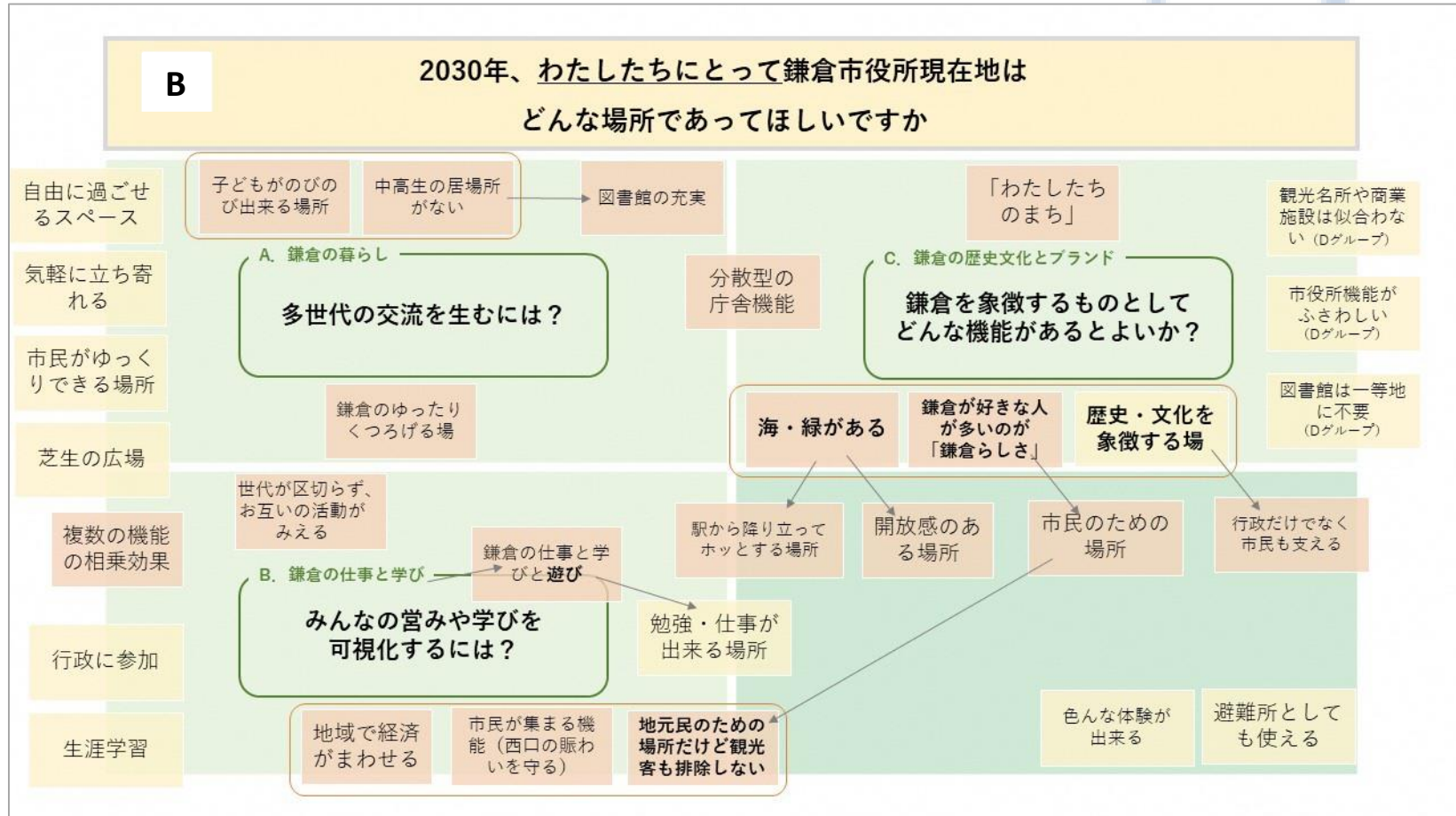
Aグループ



鎌倉市役所所在地は、鎌倉駅直近かつ角地という「好立地」を活かし、「広場と図書館」「カフェや託児所」「市民向けの」施設など「まず寄ってみる」「用事がなくても立ち寄れる」場所となると良いのではといった視点や、市民活動が盛んな地域であることを踏まえ、「新しい団体との交流」や「市民活動を活発に」行えるスペースが必要なのではないかという視点で対話を行いました。また、鎌倉の歴史・文化について発信できる機能・ソフトの充実が必要なのではという視点でも対話を行いました。



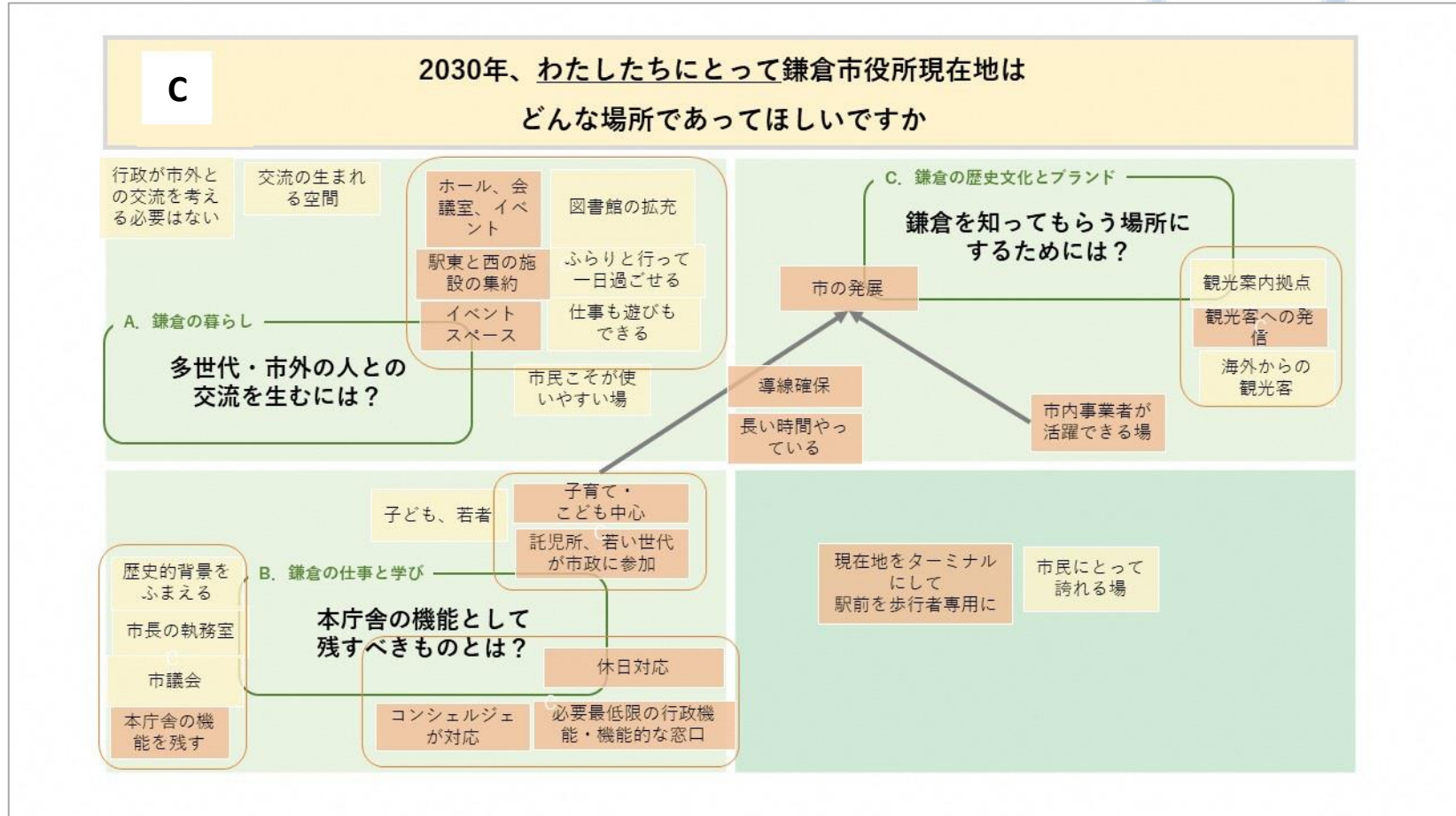
Bグループ





2030年、わたしたちにとって鎌倉市役所所在地は どんな場所であってほしいですか

Cグループ

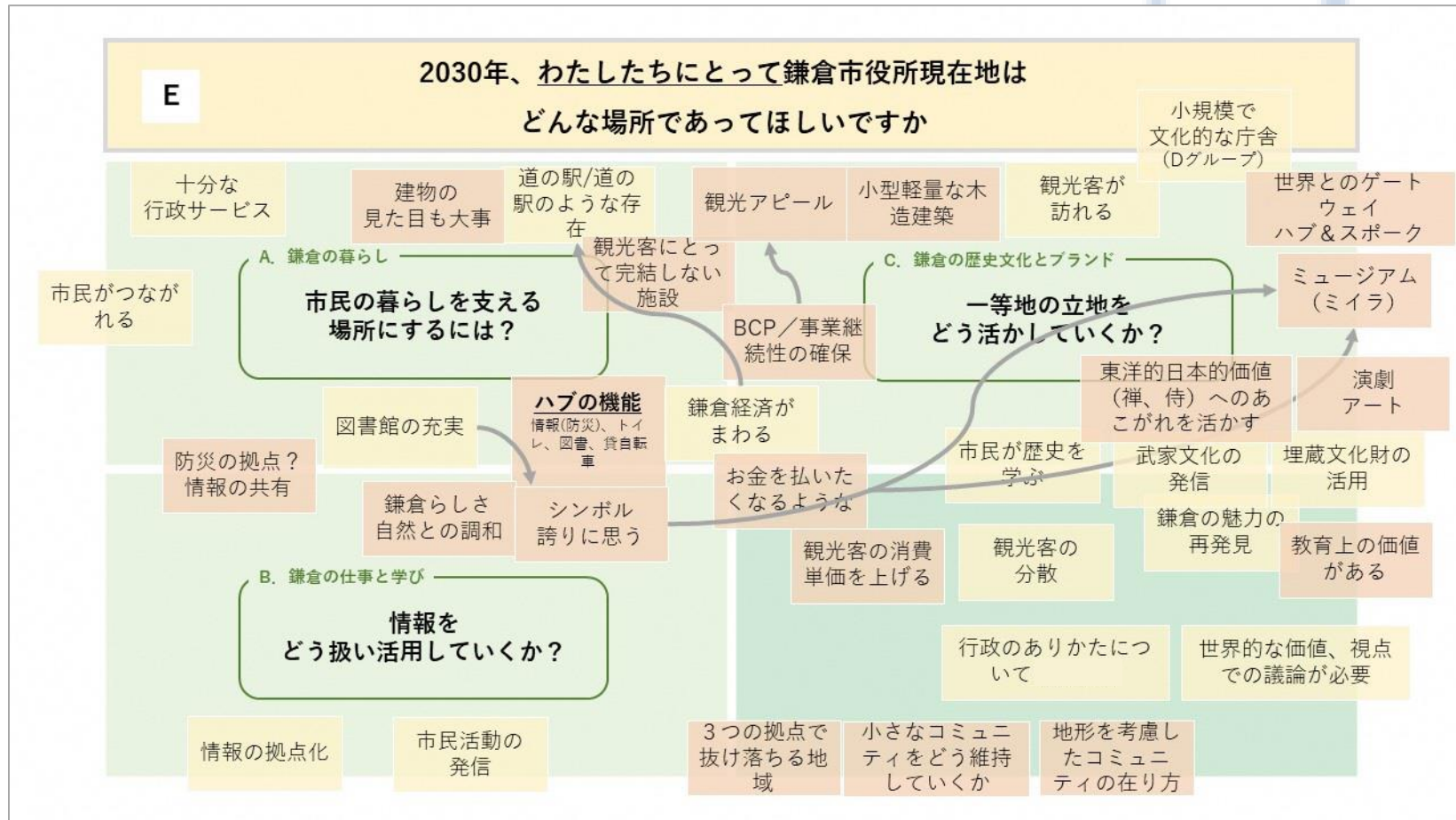


鎌倉市役所所在地は、「図書館」「ホール、会議室」「イベントスペース」などの充実を図り、「ふらりと行って一日過ごせる」「仕事も遊びもできる」「市民が使いやすい場」となると良いのではという対話を行いました。また、「子育て」世代「こども」「市内事業者」など向けの機能を設け、各機能が連携することで現在地の利活用の推進、ひいては「市の発展」につながるのではという視点でも対話を行いました。更に、鎌倉市役所所在地には「必要最小限の行政機能・機能的な窓口」は残しつつ「コンシェルジュ」や「休日（夜間）対応」などによる利便性向上が求められるとのキーワードも挙がりました。



2030年、わたしたちにとって鎌倉市役所所在地は
どんな場所であってほしいですか

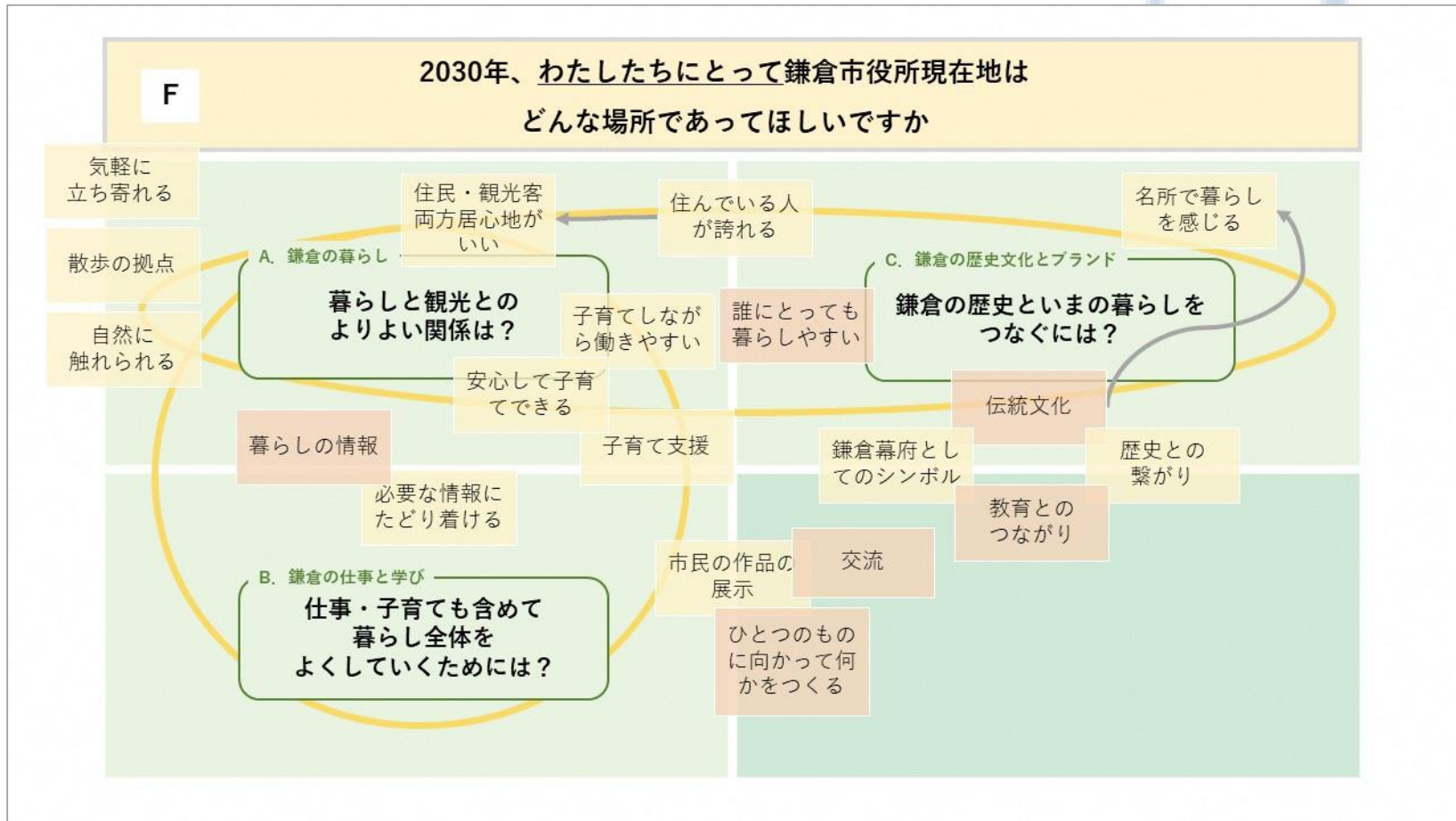
Eグループ ※Dグループは人数等を考慮し各グループに割り振りました。



鎌倉市役所所在地に対しては、「十分な行政サービス」「図書館の充実」「市民がつながれる」「鎌倉の魅力の再発見」「鎌倉らしさ」「自然との調和」などのキーワードが挙がり、鎌倉の「シンボル」「誇りに思う」施設となって欲しいという視点で対話が進みました。これを受け、防災や観光などの情報や図書、アートなどの機能が集まる「ハブの機能」となると良いのではといった内容に関して様々な具体的なアイデアが挙がりました。



Fグループ



鎌倉市役所所在地において、暮らしのなかで鎌倉の「伝統・文化」「歴史との繋がり」を感じつつ、どうすれば地域で暮らす市民のより良い生活につながるかという視点を中心に対話を行いました。「気軽に立ち寄れる」「散歩の拠点」「自然に触れられる」などの市民の憩いの場になるとともに、「安心して子育てできる」「暮らしに必要な情報にたどり着ける」など子育て世代などにとっての交流・支援機能になると良いのではというキーワードも挙がりました。